

二 天保九年十一月ノ十一月二十一日

〔表紙〕
家譜 慶永公

從天保九年十一月
到同年同月廿一日
百七十六

〔二八三八〕
天保九年戊戌

一十一月朔日御名代大助様〔松平直諫、出雲広瀬藩世嗣〕熨斗目・長袴 御登城、御黒書院〔二代將軍家慶〕江公方様・〔十三代將軍家定〕御着用

右大将様出御、御同所於縁頬御養子之御礼被仰上、公方様江御太

刀一腰・御馬一匹〔代黄金〕・綿百把・昆布一箱・干鯛一箱・御樽一

荷御献上、御奏者番安藤対馬守殿披露、御老中御取合有之、大助

様御退座、御白書院於縁頬御家老〔道孝〕泊木工〔腰明熨斗目、長袴着用〕岡部左膳御目見

被仰付、御奏者番牧野備前守殿披露之、畢而大助様於桜之間大御〔十一代將軍家齊〕

所様江之御礼被仰上、御奏者番松平右京亮殿被謁之、於御同所木

工・左膳右同断御礼申上、右京亮殿被謁之

但此節西丸御普請中二付大御所様御本丸被成御座候事

大御所様・右大将様江御献上之御太刀一腰・御馬一匹〔代黄金〕・綿

五拾把・干鯛一箱・御樽一荷宛、御奏者番本庄伊勢守殿家来江相〔道貫〕

渡之、大御台様・御台様江縮緬〔家齊室〕紅十卷・干鯛一箱宛被差上之、御

同所於檜之間御留守居年寄石河美濃守殿被謁之、公方様御附老女〔貞大〕

中六人・大御所様御附老女中三人江白銀三枚宛、公方様御附表使

七人・大御所様御附表使三人江同二枚宛御贈被成、右相濟大助様

御下城、直二此御屋形江御越被成御側御用人大宮藤馬被召出、今

日於御城御礼首尾能被仰上候段被仰聞之、右為御礼御名代大助様

御大老・御老中、大御所様・右大将様両御附御老中江御廻勤、木

工・左膳御城〔副昌〕退出、直二御大老・御老中・両御附御老中・若年寄中江廻勤、夫〔副昌〕田安御屋形江罷出、御名代大助様首尾能被御礼被仰上候段申上之

一同日右同断二付為御礼若年寄中江御使者御番頭代御用人皆川多左衛門被指出之、御奏者番中・御側衆江御使者御物頭大御番士被差出之、追而京都所司代間部下総守殿江御使者御儒者伊藤登美三郎〔詮勝〕被差出之

一同日右同断二付御内証〔副昌〕女使御年寄榎浦を以公方様江昆布一箱・干鯛一箱・御樽一荷、大御所様・右大将様江干鯛一箱・御樽一荷宛被献上之、大御台様・御台様江干鯛一箱・御樽一荷宛被指上之、右之節御家来二人御目見被仰付候、御礼茂榎浦を以被仰上之

但右女使西丸江も被指出候儀、威徳院様・天梁院様御二代〔十四代藩主治好〕者不被指出候処、諦観院様御代格別之御身柄二付御伺等〔十五代藩主齊承〕無之西丸江女使被差出候二付、此度御住居御年寄染村江申談、染村〔十六代藩主齊善〕御本丸老女飛鳥井殿江被談候処、御先代様御同様西丸江女使被指出候様被申聞候二付、今朔日女使被差出之

一同日右同断二付本多内蔵助初御家老并御城代江御書被成〔副昌〕

一 同日右同断二付田安御屋形江御使御家老岡部左膳を以一位様江御
(齊匡、慶永父)
 太刀一腰・御馬代一枚・昆布一箱・干鯛一箱・御樽一荷被進之、中納
(齊葦)
 言様江御使御木工を以右同断被進之、御簾中様江御使同人を以縮
(齊匡室)
 緋紅十卷・昆布一箱・干鯛一箱・御樽一荷被進之、大奥御文を
(齊匡四女) 以貞寿院様・鐐姫様・欽姫様江干鯛一箱・御樽代五百疋宛、右兵
(齊匡八女) 衛様・千重姫様・純姫様・群之助様・筆姫様・利姫様江干鯛一箱
(齊匡十五女) 宛被進之
(齊匡十六女) (慶頼)
(齊匡十九女) (齊匡義孫)
(匡時)

一 同日右同断二付田安一位様御使御側懸り御番頭岩波図書を以、
 此御屋形江御太刀一腰・御馬代一枚・昆布一箱・干鯛一箱・御樽
 一荷被進之、中納言様御使御側御用人竹中半十郎を以右同断被
 進之、御簾中様御使同人を以縮緋十卷・昆布一箱・干鯛一箱・
 御樽一荷被進之、田安大奥御文を以貞寿院様・鐐姫様・欽姫様
 御干鯛一箱・御樽代五百疋宛、右兵衛様・千重姫様・純姫様・群
 之助様・筆姫様・利姫様御干鯛一箱宛被進之
 右為御取替相濟候段、御家老代御側御用人大宮藤馬田安御屋形江
 罷出申上之

一 十一月二日右同断二付御国表江飛脚道中六日振被差立之
 但御徒飛脚可被差立処、御趣意二付飛脚之者被指立之

一 十一月三日御家老初御役人共迄為御目見田安御屋形江罷出候様、

昨日田安御用人御申聞候二付、御家老御木工鬘斗目・麻上下着以下同断 岡部左
 膳等初御役人共迄田安表御門同御玄関江罷出候処、田安御坊主
 共案内二而木工・左膳者対談所二罷在、御役人共者御使者之間二
 罷居、木工錠口迄田安御目付服紗上下着以下同断 案内、夫御錠口内江田
 安御用人案内二而木工罷出、御座之間御下段二御着座御服紗御上下
 御目見被仰付田安御用人披露之、御意初テ有之、御次江退、脇指
 を取再御縁頼江罷出御会釈二而御下段江入、御手自御長蛇被下之、
 御縁頼江復座御礼申上之、田安御用人御取合有之退座、左膳右同
 様御意并御長蛇頂戴等右同断 御礼申上之退座、御側御用人大宮藤馬御縁頼二而御
 目見被仰付、畢而御用人共并御側向頭取熊谷小兵衛右同様御礼申
 上之、夫御奉行・御広敷御用人・御目付・御聞番共者、御同所
 二之間二而御目見被仰付、畢而御家老初御役人共迄最前之通田安
 表御玄関通、表御門御退出

一 同日御用御頼御老中水野越前守殿江御聞番罷出、左之通御届書指
(忠邦)
 出之

先達而申上候錦之丞常盤橋屋敷引移頃合之儀、追々建繼
(十七代藩主慶永)
(福井藩上屋敷)
 ・仮補理等当月中旬迄二八出来仕候間、手狭二者候得共
 下旬二至引移相成候様仕度奉存候、此段御届奉申上候、
 以上

十一月三日
 松平錦之丞内
 大道寺七右衛門

十一月四日御用御頼御老中水野越前守殿方御呼出、御聞番介大御
番川村藤十郎罷出候処、昨三日被指出候伺書二御附札を以御指図
有之

拙者儀家督之御礼自分ニ申上度奉存候、依之来月上旬被

仰付候ハ、難有奉存候、尤引移之上表向相願候心得ニ而

御座候、此段御聞置可被下候、以上

十一月三日

松平錦之丞

御附札

書面之趣可相心得候事

十一月五日御奏者番牧野備前守殿江御聞番大道寺七右衛門罷出、
左之通指出之

御判物・御朱印御本紙并写其外目錄共取揃差出可申儀、

此度代替二付御判物・御朱印初目錄等当月中旬指出可申

候得共、郷村帳之儀者家老共代判之儀ニ御座候間、国許

江申遣出来仕候上追而指上可申候、此段申上候、以上

十一月五日

松平錦之丞内
大道寺七右衛門

一同日御用御頼御老中水野越前守殿方御呼出、御聞番介大御番中川
伝兵衛罷出候処、左之通御書付御渡

(齊善)
元松平越前守附女中剃髮・御暇等之儀今日被仰付候間、

此段為心得相達候事

十一月五日

右畢而御聞番宅江御留守居年寄松平内匠頭殿方、伊賀之者を以左
之通御書付被遣之

(乘讓)
元松平越前守附

年寄

浜尾

藤田

磯浦

右願之通剃髮被仰付、取来御扶持方・御合力金一生之内

被下、御切米者当年分被下之

若年寄

広岡

浦井

末頭
さも

右願之通剃髮被仰付、取来御切米・金御扶持方一生之内

被下之

中臈

むら

やよ

錠口
藤川

勝野

表使
袖井

山田

側詰次
つと

次
なた

くす
使番
熊路

右之分御奉公相願候得共御暇被下、当年分ハ御充行不残被下、追而被召出候儀も可有之候

右筆
むめ
次
かも
かく

右之分願之通御暇被下当年分之御充行不残被下之
右之通老女衆江可被相達候、尤御勘定奉行可被談候

十一月

一同日御供頭初御小姓頭取・御側向其外御医師等御目見未相濟候二付、田安御屋形江罷出御目見被仰付

一同日近々御家督御札被仰上為御用江戸表江被召寄候二付、御家老(知史)酒井外記、高知明石縫殿(富士)・笹治織部(正俊)・有賀内記追々福井出立(方久)
(居)

十一月七日御用番脇坂中務大輔殿(安董)御呼出、御聞番介大御番中川伝兵衛罷出候処、昨六日被差出候御伺書二御附札を以御指図有之

拙者表向年中献上之品書付を以相伺置候、右之内塩鮎子籠国許ヲ致到着候、右伺中二御座候而も可致献上儀二候哉、宜御指図被成可被下候、以上

十一月六日

松平錦之丞

御附札

公方様・右大將様江伺之通可有献上候

一同日御聞番山田藤兵衛・御供頭兩人・御小姓共・御近習番共・奥御医師等御目見未相濟候二付、今日田安御屋形江罷出御目見被仰付

十一月九日御先代之通御使者御聞番介大御番川村藤十郎を以、公方様江御国産塩鮎子籠五十一箱被献上、御側衆牧野伊勢守殿後刻可遂披露旨被申聞之、右大將様江御使者同人を以右同断被献上、御附御側衆戸田阿波守殿後刻可遂披露旨被申聞之、右御披露濟之、捻御奉書御用番脇坂中務大輔殿・御附御老中堀田備中守殿(正徳)来

上書

松平錦之丞殿

安董
裏書
脇坂中務大輔

今朝塩鮎子籠一箱進上候、遂披露候処一段之仕合候、恐々謹言

十一月九日

安董

但備中守殿方之捻御奉書も右同様二付不記之
右御請捻御書御両所江御使者御使番を以被指出之

但右御請捻御書を始都而之御書、御幼年之間者御書判無之候得共、以後度毎二者其訳不記之

一 御国産御献上之儀定例故以後不記之

一 同日御老中松平和泉守殿(乘寛)御呼出、御聞番介大御番川村藤十郎罷

出候処、去月廿九日被指出候年中御献上物并本多内蔵助献上物之

御伺書二御附札を以御指図有之

年中献上物

公方様江

御太刀 一腰

宛

御馬代 黄金一枚

右年頭・八朔為御祝儀指上

御盃台松竹鶴亀御土器

御酒代 銀子一枚

右正月三日御謡初之節指上

鯛 一折

右若菜之為御祝儀差上

干鰯 一箱

右二月・三月中指上

鯛 一折

右四月十八日為御精進揚在府之節斗差上

御単物 一

染御帷子 一

右端午之為御祝儀指上

初鯖 一箱

右四月・五月中指上

索麵 一箱

右暑氣之節差上

黄金 一枚

右御生見玉之為御祝儀差上

鮎 三

右七月・八月中指上

熨斗目御小袖 一

染服紗御小袖 一

右重陽之為御祝儀指上

塩鮎子籠 一箱

右九月・十月中差上

生鱈 三

右寒中兩度差上

熨斗目御小袖 一

染服紗御小袖 一

右歳暮之為御祝儀指上

大御所様江

御太刀 一腰

御馬代 黄金一枚 宛

右年頭・八朔為御祝儀差上

鯛 一折

右若菜之為御祝儀指上

御単物 一

染御帷子 一

右端午之為御祝儀差上

初鯖 一箱

右四月・五月中指上

索麵 一箱

右暑氣之節差上

黄金 一枚

右御生見玉之為御祝儀指上

熨斗目御小袖 一

染服紗御小袖 一

右重陽之為御祝儀差上

生鱈 三

右寒中兩度差上

熨斗目御小袖 一

染服紗御小袖 一

右歳暮之為御祝儀差上

右大将様江

御太刀 一腰

御馬代 黄金一枚 宛

右年頭・八朔之為御祝儀差上

鯛 一折

右若菜之為御祝儀差上

干鰯 一箱

右二月・三月中指上

鯛 一折

右四月十八日為御精進揚在府之節斗差上

御単物 一

染御帷子 一

右端午之為御祝儀差上

初鯖 一箱

右四月・五月中指上

索麵 一箱

右暑氣之節指上

黄金 一枚

右御生見玉之為御祝儀差上

鰻 三

右七月・八月中差上

熨斗目御小袖 一

染服紗御小袖 一

右重陽之為御祝儀差上

塩鮎子籠 一箱

右九月・十月中指上

生鱈 三

右寒中両度差上

熨斗目御小袖一

染服紗御小袖一

右歳暮之為御祝儀指上

大御台様江

白銀 五枚

干鯛 一箱

右年頭之為御祝儀差上

白銀 三枚

右端午之為御祝儀指上

干鯛 一箱

御樽代 五百疋

右御生見玉之為御祝儀差上

白銀 三枚

右重陽之為御祝儀差上

白銀 三枚

右歳暮之為御祝儀指上

御台様江

白銀 五枚

干鯛 一箱

右年頭之為御祝儀差上

白銀 三枚

右端午之為御祝儀指上

干鯛 一箱

御樽代 五百疋

右御生見玉之為御祝儀差上

白銀 三枚

右重陽之為御祝儀差上

白銀 三枚

右歳暮之為御祝儀差上

右之通公方様・大御所様・右大將様・大御台様・御台様

江是迄先代越前守ヲ致献上候、拙者儀家督被仰付候二付

以来献上物之儀如何可仕哉、宜御指図被成可被下候、以

上

十月廿九日

松平錦之丞

御附札

(齊善)
可為亡父時之通候

御内証ニ年中献上物

公方様江

御鏡餅 一飾

右元朝差上

熟瓜 一籠

右暑氣之節指上

蓮飯 一飾

刺鯖 一箱

右為中元之御祝儀指上

干鱈 一箱

右寒中差上

干鯛 一箱

右為歲暮之御祝儀指上

大御所樣江

御鏡餅 一飾

右元朝差上

熟瓜 一籠

右暑氣之節指上

蓮飯 一飾

刺鯖 一箱

右為中元之御祝儀指上

干鱈 一箱

右寒中差上

干鯛 一箱

右為歲暮之御祝儀指上

右大将樣江

御鏡餅 一飾

右元朝差上

熟瓜 一籠

右暑氣之節指上

蓮飯 一飾

刺鯖 一箱

右為中元之御祝儀指上

干鱈 一箱

右寒中指上

干鯛 一箱

右為歲暮之御祝儀指上

大御台樣江

御鏡餅 一飾

右元朝差上

索麵 一箱

右暑氣之節指上

蓮飯 一飾

刺鯖 一箱

右為中元之御祝儀指上

干鱈 一箱

右寒中差上

干鯛 一箱

右為歲暮之御祝儀指上

御台様江

御鏡餅 一箱

右元朝差上

索麵 一箱

右暑氣之節指上

蓮飯 一箱

刺鯖 一箱

右為中元之御祝儀差上

干鱈 一箱

右寒中差上

干鯛 一箱

右為歲暮之御祝儀差上

右之通公方様・大御所様・右大将様・大御台様・御台様

江先代越前守迄致献上候、拙者儀家督被仰付候二付右献

上物之儀如何可仕哉相伺申候、以上

十月廿九日

松平錦之丞

御附札

可為亡父時之通候

御内証方別段献上物

公方様江

玉鳥子紙 一箱

墨流鳥子紙 一箱

大御所様江

玉鳥子紙 一箱

墨流鳥子紙 一箱

右大将様江

繪半切紙 一箱

五色鳥子紙 一箱

大御台様江

墨流鳥子紙 一箱

和紙 一箱

御台様江

墨流鳥子紙 一箱

和紙 一箱

右每年二月中差上

右之通公方様・大御所様・右大将様・大御台様・御台様

江先代越前守迄致献上候、拙者儀家督被仰付候二付右献

上物之儀如何可仕哉相伺申候、以上

十月廿九日

松平錦之丞

御附札

可為亡父時之通候

年中献上物覚

家来
本多内蔵助

公方様江

蒸鰈 一箱

大御所様江

蒸鰈 一箱

右大将様江

蒸鰈 一箱

右為年頭之御祝儀献上仕候

公方様江

小紋鳥子紙 一箱

右大将様江

小紋鳥子紙 一箱

右為端午之御祝儀献上仕候

公方様江

豊原索麴 一箱

刺鯖 一箱

右大将様江

豊原索麴 一箱

刺鯖 一箱

右為七夕之御祝儀献上仕候

公方様江

判大奉書紙 二箱

右大将様江

判大奉書紙 二箱

右為重陽之御祝儀献上仕候

公方様江

判間奉書紙 二箱

右大将様江

判間奉書紙 二箱

右為歳暮之御祝儀献上仕候

右之通只今迄献上仕来候、以来茂先格を以可致献上哉、

相伺申候、以上

十月廿九日

御附札

可為只今迄之通候

松平錦之丞

一十一月十日御用御頼御老中水野越前守殿方御呼出、御間番介大御
番中川伝兵衛罷出候処、去ル六日差出候御伺書二御附札を以御指
図有之

此度錦之丞引移之砌大奥江登城、其節御目見御道具被下、
御本丸方直二引移可有之旨御内々御沙汰之趣被仰出奉畏
候、先代同様從御城引移之儀二付、大奥江登城之節献上
物等相伺不申候而宜御座候哉、此段御内慮奉伺候、以上

十一月六日

松平錦之丞内

大道寺七右衛門

御附札

献上物二不及候事

例書

(一七四七) 延享四卯年松平於義丸引移二付御本丸・西丸大奥江致登
(九代將軍家重)(八代將軍吉亨)
 城候、從公方様・大御所様御道具其外品々拝領物被仰付
(十一代藩主宗矩)
 候、此節兵部大輔・於義丸ヲ献上物不仕候

一十一月十一日大御台様・御台様老女中ヲ御養子御礼之節、献上物御披露濟之奉文来

一同日御家老岡部左膳始駕乘之儀二付、御目付大沢主馬殿江御使者御聞番山田藤兵衛左之通差出之

切紙

高三千五百石

松平錦之丞家来

岡部左膳
当戊五十二歳

別紙

(一八二二)

(文政四巳年四月)
乗物御免相願候

松平錦之丞家来

酒井与三左衛門

(文政五午年十二月)
乗物御免相願候

狛 木工

(文政九戌年二月)
乗物御免相願候

本多筑後(成允)

(文政九戌年十一月)
乗物御免相願候

酒井外記

(天保四巳年四月)
乗物御免相願候

松平主馬(正方)

右之外当時乗物御免之家来無御座候、以上

十一月十一日

松平錦之丞内
山田藤兵衛

一十一月十二日御用御頼御老中水野越前守殿ヲ御呼出、御聞番介大御番川村藤十郎罷出候処、去ル九月十三日御家老ヲ差出候願書江御附札を以御指図有之

今般錦之丞養子被仰付候二付、引移之節者格別之御内意之趣茂有之難有仕合奉存候、右二付奉申上候者其節田安御屋形ヲ平川口迄御見送り二相成、常盤橋屋敷ヲ者家格之供連行列二而御本丸江罷出、私共初御座敷上り被仰付供仕候様相成候得者、兼々願申上候通公辺ヲ引移候姿二相成旁以難有仕合奉存候、此等之趣厚御含被成下前文之通被仰付被下置候様奉願上候、以上

九月十三日

松平錦之丞家来

狛 木工

岡部左膳

御附札

(齊莊)

大奥江登城之節田安殿ヲ供致し、右以前錦之丞家来為迎家老始御本丸江罷出居、引移之節者家格之供立二而平川口ヲ引移可有之候、尤家来扣所之儀ハ御目付江可承合候

一同日御同所ヲ御呼出御聞番罷出候処、去九日指出候御伺書二御附札を以御指図有之

錦之丞常盤橋屋敷江引移之儀、来廿三日於田安茂御差支
無之趣二御座候間、右之日限二引移二相成候様仕度奉存
候、此段相伺申候、以上

十一月九日

松平錦之丞内

山田藤兵衛

御附札

書面伺之通相心得候様可仕候事

但右之通被仰出候段、翌十三日御側御用人・御用人・御

奉行・御目付・御聞番等江御家老申渡之、其外末々迄
者支配頭方申渡候様申渡之

一 同日御奏者番本多(康禎)下総守殿江御使者御聞番介大御番川村藤十郎を
以左之通書付被指出之

御判物・御朱印并写・領知御目録写・村寄目録御指図次
第差出申度存候、郷村高辻帳之儀者追而差出可申候、為
其以使者申達候、以上

十一月十二日

松平錦之丞使者

川村藤十郎

一 十一月十三日御家老岡部左膳駕乘之儀二付、御用番脇坂中務大輔
殿江御聞番介大御番中川伝兵衛を以左之通被差出之

家老
岡部左膳
当戊五十二歳
足痛有之、馬上斗二而難相勤二付乗物奉願候

右者拙者家来当地用事申付候、足痛有之馬上計二而難相

勤候間、乗物被成御免候様奉願候、以上

十一月十三日

松平錦之丞

脇坂中務大輔様

一 同月十五日右同断二付御用番脇坂中務大輔殿方御呼出、御聞番山
田藤兵衛罷出候処左之通御書付御渡

松平錦之丞家来

岡部左膳

右乗物断可為願之通候、誓詞判元御目付大沢主馬宅二而
見候事

一 同日御引移之儀二付御目付大沢主馬殿江御聞番山田藤兵衛左之通
指出之

錦之丞引移之節、家格之供連・迎之者家老始人数差出候
様御達二付、別紙二通差上申候、且又外二先例書帳面一
冊指上申候、以上

十一月十五日

松平錦之丞内

山田藤兵衛

別紙
覚

家老 一人
介添 一人
側用人 一人
用人 一

留守居 二人
下ケ札 一人家老附

供頭 三人
簾役 小姓頭取 一人
同 近習番頭取 一人

側向 二人

辻役使番 二人

腰物奉行 一人

右之通御城江為迎御座敷上り仕候者共

徒目付 一人

跡徒 一人

挾箱持 二人

長柄持 一人

手傘持 一人

草履取 一人

陸尺 四人

用使小人 二人

御道具拝領二付

徒 二人

長持 一棹

持人 三人

右之分御玄關脇腰懸迄指出申度者共

右之分松平錦之丞引移当日御城内江罷出申心得御座候、

以上

十一月十五日

松平錦之丞内
山田藤兵衛

但御挾箱之儀、天保六未年九月諦觀院様御引移之節、御城
を為御持御道具之内御挾箱二御当日相渡候故、子細無之
候得共此度者此御方を御迎二罷越候二付、御挾箱之分相
除可申旨御小人目付を以御聞番迄申来

別紙
覚

一家老 一人 (侍一人
草履取一人)

一側用人 一人 同断

一人 一人 同断

一留守居 二人 同断ツ、

一供頭 三人 同断ツ、

一小姓頭取 一人 同断

一近習番頭取 二人 小者一人ツ、
(侍一人ツ、
草履取一人ツ、
侍一人
草履取一人)

一辻役使番 二人

一腰物奉行 一人

右之分松平錦之丞引移当日御城内江家来召連申度奉存候、

以上

十一月十五日

松平錦之丞内
山田藤兵衛

外二

天保六未年九月諦觀院様御引移之節、御座敷上り人数

書其外御書付共、御目付羽太庄左衛門殿江相渡候二付、

右御書付・写共此度指出候得共不記之

一十一月十六日奥御儒者成島邦之丞殿之講談孟子滕文公章句上始而御聽被成

一十一月十七日御用御頼御老中水野越前守殿を御呼出、御聞番介大御番川村藤十郎罷出候処、御城内制止声之儀二付、去月廿三日御聞番共を差出候御願書二御附札を以御指図有之

御城内制止声之儀、往古者格別之御取扱も被成下候趣二御座候得共、領知半禄二相成候御取扱向も相劣り申候得共、越前守重昌一橋御屋形を引移後者追々復古仕難有奉存候、越前守治好儀者当家二而出生仕候得共、乍恐大御所様御從弟之御続ニも御座候故歟、最初を不相願御城内制止声御座候、錦之丞儀も公方様御從弟之御続有之、大御所様ニ茂御甥之御訳柄茂御座候間、先代同様引移之節を御城内制止声御座候様奉願候、御城を引移之同姓之方ニ制止声有之、錦之丞儀も御城を引移申候儀ニも御座候得者旁右之段奉願候間、此段偏ニ御聞濟被成下候様奉願上候、以上

十一月廿三日

松平錦之丞内

大道寺七右衛門

御附札

願之通御城内制止有之候事

一同日御城中ノ口江御聞番大道寺七右衛門罷出候節、大目付初鹿野(信政)河内守殿を御目付江被相渡候御書付一通、御城坊主を相渡之

御目付江

松平錦之丞

右登城之節向後御城内ニ而往来候もの不作法等無之様、御門々ニ而心附候様可被申渡候、尤人留・下座等ニハ不及候事

一同日御用御頼御老中水野越前守殿を御呼出、御聞番介大御番川村藤十郎罷出候処、去ル九日被差出候御伺書二御附札を以御指図有之

拙者儀引移相濟候後公方様・大御所様・右大将様・大御台様・御台様江献上物之儀如何相心得可申哉、此段相伺申候、以上
十一月九日
松平錦之丞

御附札

鯛一折宛可有献上候

外ニ

一延享四卯年十二月

(十一代藩主重昌)

源隆院様御引移後御献上物例書一通

(一七五八)

一宝曆八寅年六月

(十三代藩主重富)

隆徳院様御引移後御献上物例書一通

一天保六未年九月

諦觀院様御引移後御献上物例書一通

右三通之例書被指出候得共略之

拙者儀引移相濟候後御方々様江差上物之儀如何相心得可

申哉、此段相伺申候、以上

十一月九日

松平錦之丞

御附札

不及献上物候

外二

一天保六未年九月諦觀院様御引移後、御方々様江被指上物之例書一通被差出候得共略之

候様奉願上候、以上

十月十三日

松平錦之丞内
川村藤十郎

外

繪図面一枚被差出候得共略之

覚

伺之通拝借地被仰付候間、囲・竹垣等之儀ハ公儀竹

矢来ニ不紛様手輕ニ取補理、繪図面よりハ可成丈道

幅之方広く、竹垣幅取縮候様可仕旨可被申達候事

右之通御書取を以若年寄松平玄蕃頭殿被仰渡候ニ付申達

候

地処請取方之儀者御普請奉行江可申談候、尤役人詰

所等之儀者手重成儀ハ不相成筈、番所等指置候分不

苦候、且火之元等別而入念可申事

一同日御目付大沢主馬殿(忠篤)申来御聞番罷出候処、去月十三日御聞番共(忠篤)願書差出候ニ付、若年寄松平玄蕃頭殿左之通御書付を以被仰

渡候段、主馬殿被申聞之

松平錦之丞常盤橋内上屋敷焼失跡、御住居を初錦之丞館

向此度普請取懸候処、一体屋敷内地狭ニ付木作り等場所

無之候付、同処錢瓶橋際千代田稻荷前、此程迄御普請小

屋御取補理之御場所、別紙絵図之通何卒拝借仕度奉願上

候、左候得者小屋・竹矢来等取補理、木作り等仕度奉存

候、尤火之元等念入可申奉存候、此等之趣宜御聞濟被下

一十一月十八日御奏者番牧野備前守殿(忠篤)御呼出、御聞番大道寺七右

衛門罷出候処(昨十七日申来)左之通御書付御渡有之

明十九日五時錦之丞殿御所持之御判物・御朱印并写、備

前守宅江以使者可被指出候、領知目錄・同写且郷村帳茂

出来候ハ、可有持参候、以上

十一月十八日

牧野備前守

本多下総守

松平錦之丞殿

留守居

右之節備前守殿用人七右衛門江、明日御判物等被差出候節之御使者名元相尋候二付、左之通書付相渡之

覚

松平錦之丞使者

狛 木工

同道

大道寺七右衛門

右者明十九日御判物・御朱印持参仕候

右之通御座候、以上

十一月十八日

一 同日御老中水野越前守殿御渡之御書付、大目付土屋(兼直)紀伊守殿江御聞番共迄御廻状来

近年引統御儉約被仰出候得共、累年御入用筋相嵩、殊御縁辺御慶事其外御普請・御修復等二而、不時之御用途相

重り候二付、当戊年迄嚴敷御省略有之候処、彼是不時之物入有之御用途差湊、并近年不作打統御収納相減御勝手

向御繰合不被行届、当年も作方不宜趣二付御収納方江も相響可申、且ハ西丸御普請者莫大之御入用ニも有之、旁

(天保十年) 来亥年卯卯年迄五ケ年之間猶又御儉約被仰出候間、諸事(一八一)文化八未年以來度々被仰出并当春相達候通被心得、右年

限中者不依何事無抛申立を以拝借等相願候共被及御沙汰間敷候間、右二准シ都而臨時御入用ニ拘り候諸願筋者被

指扣、面々ニも弥儉約相用候様可被致候

十一月

一 同日御家老岡部左膳駕乘之儀二付、御目付大沢主馬殿宅ニ而左膳江誓詞被仰付

私儀当年五十二歳罷成候、足痛有之馬上斗ニ而奉公難相勤御座候、依之主人松平錦之丞方江乗物御免之儀御断申上候通御座候

右之趣偽於申上者

(牛) 午王

梵天帝釈四大天王、惣日本國中六十余州大小神祇(祇)、殊伊豆・箱根両所権現、三島大明神、八幡大菩薩、天満大自在天、神部類眷属神罰・冥罰各可罷蒙者也、仍起請如件

天保九戊戌年六月 松平錦之丞家老 岡部左膳判

右相濟為御札御用番脇坂中務大輔殿并御目付中江左膳廻勤、主馬殿江者太刀銀・馬代一枚左膳持参之

一 十一月十九日御用掛御奏者番牧野備前守殿江、御使者御家老狛木

工熨斗目・麻上下着用以下着服同断 副使御聞番大道寺七右衛門御判物・御朱印・御領知目錄等持参罷出、休息所江扣居候処案内有之、御奏者番本多

下総守殿并備前守殿列座之所江木工・七右衛門兩人帶劍ニ而罷出、下総守殿江御判物等木工差上之、畢而兩人共退座

覚

一御代々頂戴之御判物者貞享三寅年半知被仰付候節、松平(一六八六)
(八代藩主)兵部大輔吉品不残差上申候、因茲常憲院様御代迄之御判物者取持不仕候

一常憲院様御書出

松平兵部大輔頂戴之

越前

貞享三年寅八月九日

福井式拾五万石

一文昭院様御判物

後改伊予守(九代藩主吉邦)松平大炊頭頂戴之

正徳二年四月十一日

福井式拾五万石

一文昭院様御朱印

松平中務大輔頂戴之

越前

正徳二年四月十一日

松岡五万石

一有徳院様御判物

松平伊予守頂戴之

越前

享保二年八月十一日

福井式拾五万石

一有徳院様御朱印

松平中務大輔頂戴之

越前

享保二年八月十一日

松岡五万石

一有徳院様御朱印

松平中務大輔頂戴之

越前

享保九年正月十五日

福井三拾万石

右者享保六年同氏伊予守吉邦跡式、松平中務大輔宗昌江相統被仰出、自分領来候松岡五万石被添下、都合三拾万

被成下候

一惇信院様御判物

松平兵部大輔頂戴之

越前

延享三年十月十一日

福井三拾万石

一浚明院様御判物

松平越前守頂戴之

越前

宝曆十一年十月廿一日

福井三拾万石

一大御所様御判物

松平越前守頂戴之

領知御目錄一通

天明八年三月五日

越前

福井三拾万石

一御判物写

五通

一御朱印写

三通

一御書出写

一通

一領知御目錄写

一通

但十通共二一所二一箱二入

一村寄目錄箱入

但指出目錄一所二入

右之通相揃差上申候、且郷村高辻帳之儀者追而差出申候、

以上

十一月十九日

松平錦之丞使者
同道 狛 木工

大道寺七右衛門

右御引合相済案内有之、兩人共再罷出候処御判物等御改相済候段

下総守殿被仰聞候二付、木工相進ミ受取之兩人共退出

但御領知目錄者暫留置被成候段用人を以被申聞之

右為御届御掛御老中脇坂中務大輔殿江御使者御使番被指出之、為

御礼下総守殿・備前守殿江御使者御使番被差出之

一同日近々御引移二付公方様方為御餞別御刀伯耆国広賀一腰目貫色繪

緑赤銅七子御脇指備前国祐定一腰目貫小柄赤銅色繪緑赤銅七子松二竹鑿赤銅御紋唐草

御拝領、右御大小并折紙共御城於土圭之間、御側衆水野美濃守殿
の田安御家老渡辺能登守江被相渡

但御拵書者御腰物奉行新村登八郎の能登守江相渡之

右為御礼廿日美濃守殿江田安御家老朝倉播磨守罷出、大御所様・
大御台様江之御礼西丸御側衆平岡対馬守殿江同人罷出、右大將様
江之御礼御附御側衆新見伊賀守殿江同人罷出

一同日右同断為御餞別田安御屋形二而一位様の御持弓一箱・干鯛一
箱、中納言様の御刀薩摩国吉安一腰・御脇差大和国包清一腰・御懸物三幅対
・干鯛一箱御使田安御用人を以被進之、御簾中様の御鼻紙台御小
広蓋一組・干鯛一箱女使を以被進之、右兵衛様の御刀掛被進之、
千重姫様・純姫様・群之助様・筆姫様・利姫様の御組合二而御側
簞笥被進之

十一月廿日御老中水野越前守殿の御呼出、御聞番介大御番川村藤
十郎罷出候処、先達而御聞番共の差出候御願書二御附札を以御指
図有之

(初代藩主結城秀康) (二代將軍秀忠)
中納言秀康者乍恐台徳院様御舎兄之儀二御座候得者、自

ら御尊敬被遊、虎之皮投鞘御鎗・網代御挟箱与拝領仕候
得共、公辺を憚代々遠慮仕候得共、網代御挟箱之儀者非
常之節并旅中者為持来候得共、家中末々迄も右両品之内
一品御府内行列之中二相用度心願二罷在候得共、時節到

来不仕相歎罷在候処、錦之丞養子被仰付候処、若年二者
罷成候得共頂立候年齢にも無之候故、一品御許容も被成
下候ハ、難有奉存候段、一位様江申上候処尤二思召候二
付、一位様の御願出候趣承知仕候得者、一位様御願之通
出来候様奉願候、左候得者錦之丞威光二も相成、家中之
者共ハ不及申町在末々迄旧年之志願成就仕候得者、誠二
以難有奉存候間、何分右之一条偏二御沙汰被成下候様奉
願候、以上

十一月十日

松平錦之丞内

大道寺七右衛門

御附札

書面之儀者難相成候事

十一月廿一日近々御引移二付、田安御屋形の御納戸役田島章之助
・御広敷御用達小島茂三郎左之通御道具二差添来候二付、章之助
・茂三郎江御酒肴被下、其外末々迄被下物有之

覚

- | | | | |
|----------------------|----|----------------------|----|
| 一御蓆目 | 一棹 | 一御刀簞笥 | 一棹 |
| <small>春慶御紋付</small> | | <small>白木御紋付</small> | |
| 一御長持 | 一棹 | 一御長持 | 八棹 |
| 一御鎗長刀箱 | 一棹 | 一御膳簞笥 | 一棹 |
| 一箱釣台 | 一荷 | 一平釣台 | 七荷 |

覚

黒塗御紋付 一御長持 三棹 春慶御紋付 一御長持 四棹
白木御紋付 一御長持 二棹 白木 一御長持 六棹

一御簞笥 三棹 一御屏風 六棹

一釣台 十三荷

ノ

一同日御目付大沢主馬殿江御聞番山田藤兵衛左之通差出之

来ル廿三日錦之丞引移二付、其節為迎罷越候家来惣供勢

休息所之儀、先代越前守引移候節之通、平川口腰掛御幕

張之儀宜御取斗被成下候様奉願候、以上

十一月廿一日 松平錦之丞内 山田藤兵衛

右之通差出候処即日主馬殿江御呼出、御聞番罷出候処左之通御書

付御渡有之

一明後廿三日松平錦之丞大奥江登城、夫より常盤橋屋敷江

引移之節御広敷御門外江見坂御門通平川口御門迄、御小

人目付案内為致候事

一当朝為迎相越候供方之分、左之役人者蘇鉄間ニ相扣居、

其外者御玄関前腰掛ニ罷在、御広敷御門江相廻り、宜節

御小人目付案内ニ而御同処江相廻之、其外惣供之分ハ平

川口御門外腰懸江差置候事

家老 一人

介添 側用人 一人

用人 一人

留守居 三人

供頭 三人

同 簾役 小姓頭取 一人

近習番頭取 一人

側向 三人

辻役使番 三人

腰物奉行 一人

一御広敷御門江相廻候上、供方并平川口御門外供方共供揃

宜旨御徒目付江可申聞事

一引移当日先挾箱之儀者、平川口冠木御門外下乗所為持

候事

但雨天ニ候得者長柄傘者御広敷御門外為持候事

一駕籠之儀者惣供平川口御門外江相廻候節同所江為相廻、

御広敷御門外江繰入候節者御小人目付案内為致候事

一御城内召連候供人数書別紙之通可被相心得候、尤以後登

城之節者平川口通ニ而も其節相伺候様可被致候事

右之趣申達候事

十一月廿一日

大沢主馬

別紙

引移当日

御城内召連供人数書

一同日田安御屋形左之通書付を以申来

御附女中名前

錦之丞様附
若年寄格御守
幾尾

介添	家老	一人
側用人	一人	一人
用人	一人	一人
留守居	一人	一人
供頭	三人	三人
簾役	小姓頭取	一人
同	近習番頭取	一人
側向	二人	二人
辻改使番	二人	二人
徒目付	一人	一人
跡徒	一人	一人
長柄傘持	一人	一人
手傘持	一人	一人
草履取	二人	二人
陸尺	四人	四人
用使小人	二人	二人

同
御錠口格御守手代
玉江

同
御次
その

とゑ

みち